平成１９年度　決算の概要

１．　一般会計の決算額は、歳入 17,641,143 千円（前年度比 4.1％の減）、歳出 17,382,106 千円（前年度比 3.3％の減）、差引形式収支で 259,037 千円となり、翌年度に繰り越すべき財源 25,900 千円を除いた実質収支では、233,137 千円の黒字（対前年度比 39.4％の減）となった。

特別会計では、歳入 11,507,439 千円、歳出 11,463,015 千円、差引 44,424 千円となった。各特別会計の歳入歳出とも増となり、全体で歳入 6.3%、歳出 6.0%の増となった。

また、企業会計全体では、収益的収支で収入 6,091,965 千円、支出 6,601,125 千円となり、差引 509,160 千円の損失となった。

２．特徴点（一般会計）

(1)　平成 19 年度の我が国経済は、年度前半は企業の設備投資や輸出が堅調に推移したものの、年度後半には、サブプライム住宅ローン問題による米国景気の減速、改正建築基準法の施行による住宅投資の減少、石油製品等の値上げによる個人消費の落ち込みなどにより、景気の回復は年初に比べ緩やかなものとなった。

(2)　市税は、所得税から個人住民税への税源移譲に伴う個人住民税所得割の増等により対前年度比 9.3％の増となった。

(3)　歳出では、乳幼児・小児医療費の無料化の拡大(小学 3 年生から小学 6 年生まで)、自治会の子育てひろば整備への助成、小学校のパソコン更新など、福祉教育施策の積極的な事業展開を行った。また、白雲谷温泉、神戸電鉄駅周辺、粟生駅前公園、防災公園、児童公園や道路の整備など、引き続き都市基盤整備事業を推進した。さらに、ヒューマンライフグループを創設し、いじめ相談等の充実を図った。

(4)　地方債現在高は、149 億 8,365 万 8 千円で対前年度比、約 10.5 億円の減(△6.5％)となった。また、積立金現在高は、財政調整基金の取崩しなどにより、78 億 8,271 万 4 千円となり対前年度比、約 2.6 億の減(△3.2％)となった。

経常収支比率は、前年度より 1.2％上昇し、92.4％となった。

３．　国民健康保険特別会計は、歳入で 4,938,954 千円（対前年度 539,578 千円 12.3％増)、歳出で 4,916,045 千円(対前年度 522,708 千円 11.9％増）となった。

保険給付費(対前年度 293,600 千円　10.1%増)及び共同事業拠出金の増(対前年度 196,416 千円　74.5%増)が歳出増加の主な要因である。

4．　老人保健特別会計は、歳入で 3,970,038 千円（対前年度 22,873 千円 0.6%増)、歳出で 4,004,026 千円（対前年度 13,354 千円 0.3%増）となった。

老人保健医療費対象者数は減少しているが、医療諸費は微増となった。

なお、歳入歳出差引不足額は、20 年度予算で繰上充用するものとし、その財源は国庫支出金等の追加負担を充てるものである。

5．　介護保険特別会計は、歳入で 2,598,447 千円（対前年度 114,632 千円 4.6%増)、歳出で 2,542,944 千円（対前年度 111,229 千円 4.6%増）となった。

要支援・要介護認定者が 19 年度末で 1,558 人（18 年度末 1,535 人）となり、保険給付費が 2,329,140 千円で 2.9%の増となった。また、地域支援事業費も 61,609 千円で 32.2%の増となった。

6．企業会計

・都市開発事業会計では、収益的収支で 872 千円の黒字。

資本的支出では、工業団地拡張基本調査を実施した。

・病院事業会計では、収益的収支で 179,944 千円の赤字。

資本的支出では、屋上防水改修工事、医療機器の整備、オーダリングシステムを導入した。

・水道事業会計では、収益的収支で 148,003 千円の黒字。

資本的支出では、21 年度の完成に向け船木浄水場整備事業に本格着工するとともに、老朽配水管布設替工事等を実施した。

・下水道事業会計では、収益的収支で 478,091 千円の赤字。

資本的支出では、王子南地区の下水道整備、雨水整備等を実施した。